鳥取県高等学校 PTA 連合会

2月26日/2024

98 鳥取県高P連会報

Contents

□鳥取県高等学校PTA指導者研究大会報告 …… 1～4
講演要旨・アンケートまとめ
□令和6年度各種大会等の予定 …… 4
□鳥取県公式アプリ「とりふる」 …… 5
□令和5年度各支部活動 …… 6～7
□第72回全国高P連大会宮城大会報告 …… 7
□ハイスクール24のご案内 …… 8

令和5年度 鳥取県高等学校ＰＴＡ指導者研究大会（報告）

令和5年11月12日（日）、米子市文化ホールを会場に、県内各高校から121名のＰＴＡ会員が参加し、「鳥取県高等学校ＰＴＡ指導者研究大会」が開催されました。来賓に鳥取県教育委員会足羽教育長ご臨席のもと、徳吉会長の開会挨拶に続いて、足羽教育長からご祝辞をいただきました。その後、株式会社リクルートキャリアガイダンス編集長赤土豪一氏から、ご講演いただきました。赤土氏は、リクルートに就職後、現在に至るまで「スタディサプリ進路」などのキャリア教育の領域に一貫して携わってこられました。社会の在り方が劇的に変わっていく中で、これからのキャリア教育について研修を深めることができました。

講演要旨

「半径5ｍから始まる世界」

株式会社リクルート「キャリアガイダンス」編集長　赤土　豪一　氏

リクルートでは2年に1回、全国高等学校ＰＴＡ連合会と合同で、高校生とその保護者を対象とした大規模なアンケート調査を行っています。この合同調査からいくつかピックアップして紹介します。

まず「最近、進路や将来について会話されましたか」という質問に、「話をする」と回答したのは、保護者で9割、高校生でも8割以上となっていて、かなり進路や将来について家庭で会話している印象です。

進路や将来について考える時、7割の高校生が「不安」を感じると回答しています。その上で、普段よく進路について話す家庭では、「楽しい」と答えた子が29％なのに対し、あまり話さない家庭では14％と、半分にまで減ってしまっています。家庭の対話の頻度、そして深さによって、高校生たちの気持ちはかなり変わってくるのではないでしょうか。

実際に進路についてどんな気がかりがあるか。1位は「学力が足りない」、2位が「やりたいことが見つからない」となっていますが、この「やりたいことが見つからない」という回答に、現在の子供たちが直面している根深い問題が隠れています。

最近の子供たちの特徴として、「諦めている」という傾向が多く見られます。

YouTube や TikTok で、自分より凄い人たちが既に存在しているという現実を見て、自分はここまでやれない、上手くなれないと、勝手にその先を見た気持ちになって諦めてしまうのです。私は何者にもなれないと悲観してしまう子が沢山いて、すごくもったいないなと感じてしまいます。

また、動画やネットニュースで偏った情報を仕入れてしまう場合もあります。場合によってはその後の進路に影響が出かねないことなので、先生や保護者との会話を通して、いろんな側面に光を当ててあげることが大切です。

実際、高校生の7割が、進路について「アドバイスしてほしい」と回答しています。どのようなアドバイスを希望するかについては、人生経験のある親から、失敗談や、将来のために必要なこと、大学での学びや経験が社会でどう生かされているかについて聞きたい、という声があります。

その上で、保護者の7割が、進路について子供にアドバイスすることを「難しい」と感じています。難しいと思う理由については、「社会がどのようになっていくか分からない」という声が、コロナ禍もあって一番大きくなっています。

今はＶＵＣＡという、複雑で曖昧な、先の全く読めない時代だと言われています。

実際、これからの社会への不安と期待について聞くと、半数以上の保護者が「不安」と回答しています。一方で、高校生は「期待」

発行
鳥取県高等学校ＰＴＡ連合会 〒680-0846鳥取市扇町21県民ふれあい会館内
TEL/0857－27－0730　FAX/0857-27-0739　E-mail/tori-kop@gamma.ocn.ne.jp
バックナンバーはホームページでご覧いただけます。http://tottori-koupren.com/

大会の様子

と答えた子の方が多くいました。多様化が進み、価値観の違いが受け入れられる社会に期待を寄せる子が多くいるようで、少し安心しました。

社会の多様化が進むにつれて、働き方も変わりつつあります。

いろんなキャリアがあり、副業、転職は当たり前。例えばリクルートでは今、副業ＯＫ、出社義務に関しても一切ありません。どこで働いていてもいいので同僚と顔を合わせることもほとんど無く、月１回程度、オフィスで会うぐらいになっています。今の高校生が就職して65歳まで働くとしたら、２、３回転職することが当たり前になっているかもしれません。

このように働き方にも多様性が認められている今の社会ですが、裏を返すと、その人の能力によっては、逆に選べないものが増えている社会だとも言えます。

例えば、どこで働いてもいいからと言って、明日からシンガポールで働きたいと思っても、英語が苦手な人にはその選択肢を選ぶことはできません。

多様化が進み、選択肢が増えていっても、自分がどうありたいか、どんな自分になっていきたいかを考えていないと、選択肢と同時に選択できないものまで増えていってしまいます。

昔の社会は「単線型」で今は「複線型」、と表現されたりしますが、ＶＵＣＡや多様性といったことを含めて考えると、線路というよりは、海の上のサーフィンに近いのかもしれません。

毎回来る波は違って、どんな波が来るか読めないけど、漠然と進みたい方向に行くことはできるかもしれない。そのためには、自分が持っているボードの特徴やサーフィンの腕前、つまり強みだったり才能だったりを知った上で、どこに行きたいのか、どんな形で行きたいのかを考えることが、これからの社会ではとても大事になってくるのではないでしょうか。

社会が変化していく中で、求められる学力というものも変化しています。

昔は学力と言えば「知識・技能」を指すことが多かったと思いますが、今は「思考力・判断力・表現力」、さらに、「主体性・多様性・協働性」というもの、これらが全て学力だと学習指導要領では定義されています。

主体性や多様性をどうやって学力として測ればいいのか、難しいところもありますが、実際に大学入試でも、この主体性や多様性、協働性を評価する向きが出てきています。

例えば、いま多くの大学が取り入れている総合型選抜、昔はＡＯ入試と言っていたものですが、ここでは高校での探求の時間や部活の中での取組、習い事やボランティアといった活動が評価されるようになっています。

島根大学では「へるん入試」という素晴らしい試みが行われています。この入試では、何に取り組んできたかは問わず、これから何を学びたいか、「学びのタネ」を受験者から聞きます。面談の中で学びたいことを聞いて、どうやって学んでいけばいいか、どんな環境で学ぶのがいいのか、大学側が一緒に考えてくれるというもので、「育成型入試」とも表現されています。

例えば山陰地方の人々の文化の移り変わりを研究したいとなったら、それなら島根大学でこういった研究ができるよというのを話してくれたり、時に、もしその研究をしたいならこっちの大学の方がいいよと、他の大学を勧めてくれることもあったりするようです。

ここまでは社会の変化や大学入試の変化を見てきましたが、これらのことを受けて、高校でも変化が起きています。「総合的な学習の時間」と言っていたものが、「総合的な探究の時間」に変わりました。

学習から探究となり、何が変わったかというと、「課題を解決する」ことから、「課題を発見する」「自分らしい問いを持つ」ことにより重点が置かれるようになりました。

スマホやChatGPTといったものの登場で、課題を「解決する」ことより「発見する」ことの価値が高まっているのです。

また学習指導要領の中では、発見した自分なりの問いを、進路や仕事といった、自分の将来に結びつけていくことができればより望ましいと表現されています。

これを体現したような、ある大学生の話を紹介します。

彼は高校二年の修学旅行で京都に行った時、京の花街に電柱が無いことに気づきました。

そのことが気になった彼は、クラスの皆が銀閣寺に行くという時、一人だけ市役所へ行って、どうしてあの辺には電柱が無いんですかと聞いたそうです。

市役所の人から、京都では景観を保つために電柱を地下に埋めていることを教えてもらった彼は、高校に帰ってきてから、皆が銀閣寺の素晴らしさや学びのポイントを発表する中で、なぜ京都の電柱は地中に埋まっているのかをプレゼンしました。

そのプレゼンを聞いていた先生が、それはすごく面白いと言ってくれて、どうしてこの辺ではそうなっていないのだろうね、世界ではどうなっているのだろうね、と逆に聞いてくれたのです。

彼はその先生からの問いについて考え続け、最終的にはそのことを探究できる大学に進学しました。大学では、行政の人と一緒に、観光地をより魅力的にするプロジェクトをやっていたりするそうです。

まさにこれが先程の「課題を発見する」「自分らしい問いを持つ」ことの好例だと思います。これほど上手くいくケースは珍しいと思うのですが、この話で何より重要なのは、一番最初、彼が京都の花街に電柱がないことを「発見」したことです。

この自分の半径５メートルでの発見を、私は「自分だけの密かなドキドキ」と呼んでいます。

皆が銀閣寺、銀閣寺と言っている時、彼は電柱が無いことを発見し、それに「自分だけの密かなドキドキ」を感じたわけです。

ここで大事なのは、そのことに興味を持っている自分とは、一体どういう存在なのだろうと考えてみることです。いろんな物事を見に行って、視点を増やしていくというのも大事ですが、同時に、自分の生き方、在り方を見つめて、自分はどういう存在でどういう生き方をしていきたいのか考えることが、この先の自分のキャリアを決める上で重要になってきます。

この「自分だけの密かなドキドキ」を、実際にキャリアに結びつけていった人たちの話を紹介したいと思います。

一人目は、スタイリッシュな白衣を製造・販売する会社、クラシコを立ち上げた大和新さん。

彼の「密かなドキドキ」のきっかけ

は同窓会で、医師になった友人の愚痴を聞いたことでした。

「何で白衣ってカッコいいのが無いんだろう、みんなよれよれなんだよね」というのを聞いて、大和さんは、「自分なら作れるかも」と思ったそうです。実際調べてみると、当時の白衣は生地がペラペラで、デザイン的にもあまりカッコいいものがありませんでした。

カッコいい白衣があれば、医療関係者のモチベーションアップに繋がり、「今日も頑張ろう」と思ってもらえるんじゃないか。

大和さんは、居酒屋での友人との会話から、医療業界が抱える白衣の課題を発見したのです。

二人目は「DFree」というデバイスを作った中西敦士さん。

「DFree」は介護現場で今大きな期待を寄せられている、排泄を予測するデバイスで、簡単に言うと、あと10分でおしっこが出ますと教えてくれる機械です。

中西さんのきっかけはちょっと衝撃的で、29歳の時、留学先のアメリカで「うんち」を漏らしたことでした。

外出先で漏らしてしまった中西さんは泣きながら家に帰り、もう誰も漏らさない世の中を作りたい、と思ったそうなんですが、ここからが凄いところで、アメリカに留学していた彼はシリコンバレーに行って、作れるか分からないけど排泄予測デバイスというものが作りたいと、自分の熱い想いを日本人の投資家に語り、本当に投資してもらったのです。

きっかけは自分が漏らしたことでしたが、そこから発展して中西さんが発見した課題は、排泄に悩みを抱える人をおむつから解放できないか、ということでした。

三人目は石井裕さん。マサチューセッツ工科大学の建築系学部内にあるＭＩＴメディアラボという研究所で副所長をされています。

石井先生はデジタルとアナログを掛け合わせた「タンジブル・ビット」という、老若男女が直感的かつ手触り感を持って使えるコンピューターを提唱しました。

このタンジブル・ビットの発想のきっかけは、宮沢賢治の詩でした。

石井先生は学生時代からずっと宮沢賢治が好きで、40歳でＭＩＴに移籍することが決まった時、渡米する前にせっかくだからと、東北にある宮沢賢治の博物館に行ってみたそうです。

そこで「永訣の朝」という詩の肉筆原稿を見て、衝撃を受けた。「永訣の朝」は、賢治が妹を亡くした時に書いた詩で、石井先生も好きな作品だったのですが、博物館にあった肉筆原稿には、手書きの跡とか殴り書いた跡とか、涙が落ちた跡のようなシミもあって、宮沢賢治の身体の痕跡や思いといったものが、情報として、これでもかというぐらいに詰め込まれていたのです。

石井先生は、自分が今まで見てきた「永訣の朝」とは何だったのだろうと、文庫本のものと肉筆原稿、どちらが本物の「永訣の朝」かと言われれば、間違いなく後者が本物だと思った。では、文庫本で失われてしまったものは何だろうかと考え始め、デジタルという無機質な空間にアナログの良質な手触りや情報を掛け合わすことはできないものか、という問いを持つに至ったのです。

最後に紹介するのは「いわた書店」の岩田徹さんです。読書歴や悩みなどを書いた「カルテ」を送ると、その人が今必要としているであろう本を一万円分、選んで届けてくれる「一万円選書」というサービスをやっておられます。

一万円選書を始めたきっかけは、先輩から「ちょっと今しんどいから、一万円で本を選んでくれないか」と頼まれたこと。実際にやってみると、本を選ぶのが凄く楽しくて、これをもっと多くの人に提供できないかなと思ったそうです。

ここまで紹介した四人の話を通して、私がいつも高校生に伝えているメッセージは、「始まりってそんなに大したことじゃない」ということです。

やっていることが凄くて、途方もなく遠い存在に見えるんだけど、始まりやきっかけは全然特別なことじゃない。でも、この四人はその些細なことから気づきを得て、そこから行動を起こした。

行動してみるというのはすごく大事なことです。

あらゆる始まりは自分の半径５メートルに転がっていて、それに気づくだけで満足せず、そこから調べたり考えたり、何らかの行動を起こす。そういった選択の積み重ねが、新しいビジネスや研究に繋がっていくのだと思います。

発見から行動を起こす時には、自分の半径５メートルから外に飛び出さなければなりません。参考として、リクルートで高校生向けに開催したトライアルの実例を、３つ紹介したいと思います。

１つ目は「気になったことを写真で撮るワークショップ」。普段この活動をされている市川力さんとコラボして開催しました。

フィールドワークのような形で３０分間、自分がドキドキしたものや、何だろうと思ったものを見つけて写真を撮ってきてもらいます。ただし、映えを意識したり検索したりするのは禁止です。目的も言いません。

最初は皆、何を撮っていいか分からず動けないでいるんですけど、市川さんが手本を見せると次第に要領を得てきて、雨垂れのシミだったり、ロッカーの下駄箱の錆びだったりを見つけて撮るようになってきます。

撮影が終わったら、次は自分が撮った写真の中から推しの一枚を絵に描いてみる。これは観察力を上げるのと、気づきをより自分事にするためのアプローチです。

やってみると、さっきの下駄箱の錆びが、人によってまだらだったり形が変わるのは何でなんだろうと、普段見慣れているはずのものから新しい発見ができるようになってきます。市川さんはこれを「気づきの筋トレ」と表現されています。

気づきの筋トレの継続は探究活動の基礎を養い、社会に出てからも小さな気づきを見逃さず、新たなアイディアを生み出す原動力となります。

２つ目は「毎週ちょっとやってみたチャレンジ」。

高校生に今日の講演のような授業を受けてもらい、その上で、そこから１ヶ月間、毎週何か新しいこと、自分が気になっていることにチャレンジしてもらいます。

２人の女の子の例を紹介したいと思います。

１人目は、朝寝坊してしまう女の子。毎朝時間ギリギリで電車に乗って学校に通っていたけど、このチャレンジで朝早く起きるようにして、乗る電車も変えてみた。

講師　赤土 豪一氏

もう１人は、同じクラスにどうしても友達になりたい子がいて、その子と友達になるために、髪型を変えてみたり、ポジティブな言葉を使ってみたり、自分の雰囲気を変えて近付いてみるというチャレンジをやってみた。

この１ヶ月間のチャレンジで２人共、朝寝坊を克服したり新しい友達が出来たりしたのですが、面白いことに、取組が終わった後も彼女たちは「また来週、新しいチャレンジをしてみよう」という意欲を持ち続けていました。

これが習慣化されていくと、半径５メートルで気づいたことをちょっとやってみる、１歩踏み出すということが自然と出来るようになっていくと思います。

三つ目は、「高校生 Ring」という名前でリクルートが取り組んでいる、アントレプレナーシップ・プログラム。

アントレプレナーシップ（自ら問いを立て行動し、変化を起こす力）を養うことを目的とした高校生向けの取組で、半径５メートルの発見から得た気づきを元に、自分たちの手で実際にビジネスモデルを創ってもらいます。

例えば、次のようなビジネスモデルが生まれています。

高齢者と学生をつなぐ、県外進学者のためのホームステイマッチングサービス。

遠方の学校に進学したい学生と、若者との共同生活や家賃収入のために自宅を貸し出したい高齢者、そして入学生徒数を伸ばしたい学校の三者をマッチングするというビジネスモデルですが、これは、自分のやりたい部活がある中学校に、実家を離れて祖母の家から通っていたという生徒の実体験から生まれました。

いつでも美容院で髪をセットできるサブスクリプションサービス。前髪が整わなくて一日中ブルー、美容室でさくっと直せるサービスがあればいいのに、という女子生徒の発想から生まれました。

陸上にいながら水泳と同じような運動ができる機器の提供。高齢者や介護施設向けのサービスですが、最初の発想は、コロナ禍でプールに行けなくなったという生徒自身の体験から始まっています。

これらのビジネスモデルは、実際にプログラムに参加してくれた高校生たちが、関係者にインタビューを取ったり実地調査をしたりすることで、問題の解決法や新しい発想を見つけ、元の気づきを磨き込んだ上で完成させています。学校の先生やリクルートのサポートはありますが、自分起点のアイディアから、自分たちの力で、いちからビジネスモデルを創り上げているのです。

今日の講演では、知識の必要性という部分にはあまり触れませんでした。でも、勉強ももちろん大事で、いろんな視点を持とうとする時には、知識とか技能、思いやりといったことがとても大事になってきます。

勉強は当然大切、でも、今まではそればかりに比重を置きすぎていて、探索することがおろそかになっていたのかもしれません。知識を深めることと遠くに広げていくこと、どちらも大切で、これからの時代、知の深化と探索をバランスよく両立させる「両利きの学び」が必要になってくるでしょう。

変化の激しい今の時代、当たり前の学び方というものは無くなっていくと思います。起こること全てを自分の学びに変えていくことが大切です。

足羽教育長祝辞

アンケートまとめ

・高校生に聴かせたい講演であった。
・今後の探究活動に活かしたい。
・わかりやすかった。すぐに実践できることもあり、やってみようという気持ちになった。
・探究って何だろう?と高校入学以来思っていた。今日なるほどと思った。子どもと一緒にワクワクするものを探していきたい。
・今の子ども達、社会の状況を踏まえお話しいただき大変わかりやすかった。我が子に対して、また教室で多くの生徒に対してこれから接するためのヒントになった。
・我が子に家庭で伝えたい。まず子どもに、「あなたの高校生活に点数をつけるとすれば何点ですか?」と聞くことから話してみようと思う。
・ちょっとやってみるの言葉と行動の奥に大きな可能性を感じた。
・子ども達に伝えたいテーマだと感じた。
・学歴も大切だが、進路への一つの選択肢が増える学びができるようになればうれしいと思う。
・たくさんの気づきや学びがあった。
・講演全体を通して、優しい声、聴きやすいトークのスピードが良かった。
・今の教育の姿が勉強になった。
・とても丁寧に、コンパクトに整理された内容で、聴いた話をすっと受け取ることができた。
・赤土さんの講演から明るい展望が開けたような気がする。
・子ども達がやりたいことを見つけたときに失敗を恐れず背中を押してやりたいと思った。
・動画の子ども達がとても素敵だった。

アンケートのお礼

大会終了後に多くの方から
ご意見をいただきました。
ありがとうございました。

令和６年度
各種大会等の予定

○鳥取県高等学校ＰＴＡ連合会総会
期日：６月８日（土）
会場：倉吉市「倉吉体育文化会館」

○第 66 回中国・四国地区高等学校 PTA 連合会大会高知大会
期日：７月12日（金）
会場：高知市
「高知県立県民文化ホール」
大会テーマ：「はばたけ若人よ郷土の大空へ」
～みんなぁ～が願いゆうぜよ！～

○第 73 回全国高等学校 PTA 連合会大会 2024 茨城大会
期日：８月22日（木）～23日（金）
会場：水戸市「アダストリアみとアリーナ」他
大会テーマ：「歴史の町で変革を！！」
～新たな時代が目に入らぬか～

鳥取県高Ｐ連では、中四国大会・全国大会参加のため宿泊の確保をしております。
たくさんのご参加をお待ちしております。

○鳥取県高等学校 PTA 指導者研究大会
期日：11月10日（日）
会場：鳥取市「とりぎん文化会館」

鳥取県公式アプリ「とりふる」

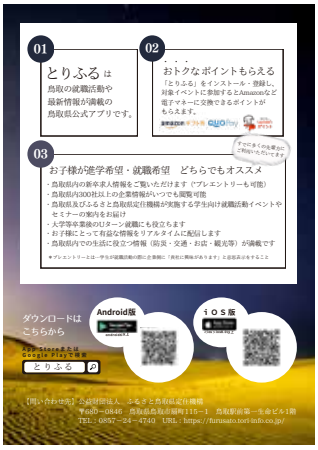
「とりふる」は、令和二年二月にリリースされた鳥取県公式アプリで、現在二万人以上の皆様にご登録いただいています。いつでもどこでも鳥取県の旬の情報をお届けし、登録者の皆様と鳥取県をつなぐ貴重なツールとして広く利用されています。

特に県外に進学された皆さんが就職活動をされる際、県内に事業所を持つ三百三十社以上の企業について詳しい情報収集ができるだけでなく、企業へのプレエントリー機能やインターンシップ情報の入手等、鳥取県内への就職を考える上でこれ以上ない有用なアプリとしてご利用いただいています。

県外で学ぶ学生の多くは、大手就職情報サイトや学校に届いた求人票によって企業情報を得ることになりますが、「とりふる」にはこれら大手就職情報サイトには掲載されていない県内優良企業の情報が満載です。「鳥取県には企業がない」のではなく「鳥取県の企業情報を知る機会がない」というのが現実であり、「とりふる」を活用することによって、国内はもちろん世界で活躍する素晴らしい県内企業を知っていただくことができます。

また、県内のグルメ・新規店舗紹介・各種イベント・観光等、日常生活を充実させるための「旬の情報」も満載で、高校を卒業して県内就職をされる皆さんにもフルにご利用いただけるアプリとなっています。

「とりふる」は保護者の皆様もご利用いただけます。この機会にぜひＱＲコードからご登録いただき、鳥取県の企業を知るとともに就活支援イベントの開催情報等をお子様と共有していただくことによって、お子様をサポートし、鳥取県の企業に興味関心を持って就職活動に臨んでいただければ幸いです。



インストール用 QR コード

【App Store】

【Google Play】

鳥取で学び育ったからこその思いや愛着を持つ皆さんと一緒にふるさと・鳥取を盛り上げていきたいと思っています。「とりふる」で県内企業を検索してみてください。参考に情報をお寄せいただいた企業をご紹介します。

株式会社ＬＩＭＮＯ

鳥取三洋電機の優れた技術力やものづくりの精神を受け継ぎ２０１３年に誕生した会社です。今年１月、創業１０周年を機に「三洋テクノソリューションズ鳥取」から「ＬＩＭＮＯ（リムノ）」へと社名を変更しました。「限界（ＬＩＭＩＴ）を否定（ＮＯ）する」という意味を込めております。

当社は、通信教育大手の教育用タブレットをはじめ、飲食店向けオーダー用タブレットなどを手掛け、製品の企画から開発・製造・品質管理まで一貫した体制を強みにものづくりを行いながら、ＩＯＴを活用したタブレットのカスタマイズやサービスの最適化にも取り組み、お客様の多様化するニーズにマッチした価値提供に挑戦しております。

また、仕事と生活の調和を図ると共に、男女問わず全ての社員がその能力を十分に発揮できる働きやすい雇用環境を目指し、働き方改革を進めるとともに、女性活躍推進にも積極的に取り組んでいます。

「ひとりひとりにどこまでも寄り添い、ときめく未来をデザインします」という経営理念に則り、あらゆる垣根を越えて、新たな価値を共創し、ひとりひとりが生きる喜びに満ちた未来を創り出していきたいと考えております。

山陰酸素工業株式会社

山陰酸素工業は約８０年前に酸素の製造から事業をスタートし、現在では家庭で使われるＬＰガスをはじめ、鋼材の溶接・切断、病院での酸素吸入に使われる酸素ガス、先端産業や食品加工に使われる窒素ガスなど山陰地域の幅広い分野にガスを供給しています。さらには住宅の新築・リフォームや電気事業にも参入するなど、お客様がより豊かで便利な暮らしができるよう常に挑戦を続けています。最近では持続可能な社会の実現のため、カーボンニュートラルや地域防災活動の推進などの取組みにも力を入れています。また、企業にとって最も大切な資本である「従業員」が心身共に健康であることを重要な経営課題とし、職場環境整備や生活習慣改善等にも積極的に取組んでいます。

令和5年度各支部活動

【東部地区】

東部地区では、県立高等学校のＰＴＡ会長と学校長とで行う研修会を例年春と秋に開催することから「春秋会」と称しており、各高等学校が持ち回りで運営を担当しています。

春の春秋会では「東部地区高等学校ＰＴＡ連絡協議会総会」とも位置付けて開催し、秋の春秋会では施設見学や授業見学を行うとともに、年によっては実地体験などを併せた趣向を凝らした内容として開催しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症が５類に移行したが、引き続き「春の春秋会」は一堂に参集することは止め、書面による開催として、令和四年度の事業報告と決算報告、令和五年度の事業計画と予算案について決議しました。

また、幹事校の順序についての確認の他、役員改選では、東部地区会長に徳吉淳一氏（鳥取西高校ＰＴＡ会長）の選出が確認されました。

11月１日（水）午後には、鳥取県立博物館を会場として、東部地区９校のＰＴＡ会長、学校長の参加により「秋の春秋会」を開催しました。

最初に博物館で開催中の企画展「勾玉の世界」を鑑賞しました。

県内の発掘品も多く、博物館の専門員によるわかりやすい解説により、興味深く拝見することができました。

その後の協議・情報交換では、令和５年４月１日から自転車利用者のヘルメット着用が努力義務化されたことを受け、高校生のヘルメットの着用率向上のための改善策について、各校の取組状況などの情報交換が行われました。

また、ＰＴＡの学校祭への関わりについて、模擬店での販売や、行事での熱中症対策用ドリンクの配付等、ＰＴＡへの帰属意識向上にもつながる取組についての意見が交わされ、時間が足りないくらいの充実した情報交換となりました。

さらに、今年度も教育懇談会を開催し、学校間の活発な交流の中、親睦を深める有意義な会となりました。

（文責　東部地区高Ｐ連事務局）

【中部地区】

今年度の中部地区高Ｐ連の体制は、ＰＴＡ会長が五校中二校で交代し、中部地区会長も今年度から倉吉西高校の藤井一彦会長となり新体制でスタートしました。「中部は一つ」のスローガンのもと、今年度も各校役員と会員が一丸となり活動しました。今年度は五月から、新型コロナウイルス感染症が五類に分類されたことにより、様々な制限のもと、縮小開催、中止になっていた活動も徐々に実施可能となってきました。

活動内容としては、五月二十三日に第一回中部地区校長・ＰＴＡ会長会を開催し、令和四年度の事業報告及び決算報告、令和五年度の事業期計画と予算案についての決議を行いました。その中で、昨年度まで中止としていた中部地区高等学校ＰＴＡ連合会交流会（キンボール）を復活させることを決定しました。

七月七日には、中部地区高等学校ＰＴＡ連合会交流会を無事実施することができ、総勢三十七名で久しぶりに、和気あいあいと楽しみながら交流することができました。そのあとの懇親会ではお互いの学校の情報交換をする良い機会となりました。

九月十二日には、第二回中部地区校長・ＰＴＡ会長会を開催し、十月二十一日に予定している、中部地区高等学校ＰＴＡ連合会研修会の検討事項を中心に協議を行いました。今年度の研修会では、これまでの講演形式から、体験型の研修に大きく舵を切ることにしました。研修先として、関金地区にある山守集学校、倉吉線廃線跡、鳥取県立美術館建設現場にお願いし、当日は三十三名の参加がありました。山守集学校では廃校となった旧山守小学校の有効活用として、地域に開放されたコミュニティ空間としての役割について学ぶことができ、倉吉線廃線跡では過去に汽車に揺られて倉吉に行った記憶がよみがえり、県立美術館の建設現場では、最新の技術と芸術の融合を目の当たりにしました。これまでとは一風違った研修に、参加者の皆さんもとても有意義な時間を過ごしておられました。

ポストコロナの年となり、様々な場面でかつてのように戻りつつあると実感する一方で、これまでとは違った環境に順応していくことが求められているように感じます。しかし、ＰＴＡ連合会の会員が目指すところは決して変わることはなく、生徒の健全な育成を支え、見守るこの点につきます。そのためにも、「中部は一つ」を大切にこれからも、中部地区が一体となって活動していくことを期待しています。

（文責　中部地区高Ｐ連事務局）

【西部地区】

今年度の西部地区高等学校ＰＴＡ連絡協議会は、５月23日に総会を米子ワシントンホテルプラザで開催しました。新型コロナウィルス感染症が５類に移行し、約４年ぶりに懇親会も実施できました。各校の校長先生・ＰＴＡ会長が集い、各校の今年度の取り組み予定など共有し新たなスタートを切りました。

７月14日には岡山県倉敷市で行われた第65回中国・四国地区高等学校ＰＴＡ連合会大会が、そして８月24日・25日には、第72回全国高等学校ＰＴＡ連合大会「宮城大会」も無事に開催され、

西部地区高Ｐ連からも多数参加し、ＰＴＡ活動をする工夫や苦労を分かち合い、勉強しました。10月7日には西部地区高等学校ＰＴＡ会長・校長合同研修会を実施しました。境高等学校を幹事校に、三光㈱潮見工場を見学させていただきました。廃棄物が適切に処分されていく様子と共に再び利用できるものを分別し再生化していく様子は、大変勉強になりました。廃棄物によって処理方法が４種類に区分されることを学ぶカードゲームでは、活発な対話が弾み、今年度後半のＰＴＡ活動を勢いづける有意義な会となりました。その他、西部地区高等学校が担当する鳥取県高等学校ＰＴＡ指導者研究大会を11月12日に米子市文化ホールで開催させていただきました。多くの県内ＰＴＡ関係者に参加していただきましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。

今年度より従来の活動が再開しており、改めて対面で集うことの重要性を実感しております。来年度は本年度以上に、各校は積極的に生徒の支援につとめ交流を深めていきます。今後とも西部地区では、保護者と学校が協力し合いながら未来に羽ばたく高校生の育成に努めるＰＴＡ活動を行っていくこととしています。

（文責　西部地区高Ｐ連事務局）

第72回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会宮城大会報告

大会テーマ　「豊かな杜につむぐ虹の光」～しなやかな強さで生き抜く力～

第72回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会宮城大会が令和5年8月24（木）、25日（金）の2日間、全国各地から約６４００名（宮城県内７００名）の現地参加、２４７校のオンライン参加の中、仙台市で開催されました。

鳥取県からは現地57名、オンライン1校の参加となりました。大会趣旨「ＶＵＣＡの時代を生きていく、多様な子供たちが、格差や差別などの弊害を感じることなく、自分らしく可能性を最大限に発揮できる持続可能な社会を一緒に形成することこそＰＴＡの役割ではないでしょうか。本大会では、その具体的な働きかけについて、様々な角度から皆様と共に考えていきたいと思います。」のもと、初日の午前中は、希望者の東北大学キャンパスツアーと震災遺構見学の教育視察があり、午後から6会場に渡りアトラクションと分科会が行われました。

私の参加した第３分科会では、「レジリエンス教育」強く生きるための多様性とコミュニケーションの光～自己肯定感と逆境から立ち上がる力を育む～をテーマに、仙台大学体育学部健康福祉学科教授の氏家靖浩氏による基調講演を拝聴しました。演題は「落ちこむ高校生に疲れた大人は何ができるか」で、お話の中で『大人はどんなに疲れきっていても大人の価値観を押し付けずに、高校生に寄り添う工夫をしなければならない。そのために、日ごろから良い人間関係を築きましょう。（・聴くこと・話すこと・関わること・基本は丁寧に向き合うこと）』との言葉が心に残りました。その後、コーディネーターを氏家氏に、パネリストに宮城県柴田高等学校校長の土生善弘氏、宮城県名取高等学校ＰＴＡ会長内藤真希氏、宮城教育大学学生狩野美空氏を迎えてパネルディスカッションが行われました。それぞれの立場や経験から貴重なお話を聞くことができました。参加者からも、「ニートになりたいと言っている子へのアドバイス」「落ちこむ子供との向き合い方」等、たくさんの質問がありそれぞれの立場からのご意見を聞き、有意義な時間となりました。

大会2日目には、「白Ａ」によるプロジェクションマッピングが披露されました。その後、開会式と表彰式が行われ、本県からは、5年に一度の文部科学省ＰＴＡ活動振興功労者として、鳥取西高前会長の西川昌孝氏が表彰されました。全国高Ｐ連会長表彰に鳥取東高吉澤春樹前会長と倉吉総合産業高米原幸司会長が個人表彰、青谷高校と米子高校が団体表彰を受賞されました。

その後行われた記念講演は、夏の全国高校野球選手権大会で準優勝された仙台育英学園高校の硬式野球部監督　須江航氏による講演でした。演題は、「伝わる言葉～失敗から学ぶ～」です。お話の中で、「人生の中で勝てることは少なく、人は負けたことから多くを学ぶ。大切なのは、挫折との向き合い方だ。」という言葉が心に残りました。また、伝わる言葉については、「相手が聞きたいことしか伝わらない。欲しがるものしか求めないから相手が聞きたいことを知るしかない。」とお話しされました。丁寧な対話の大切さを感じる講演でした。

閉会式で、次期開催地の茨城県に全国高Ｐ連の旗が引き継がれました。（文責　県高Ｐ連事務局）

鳥取県高等学校PTA連合会会員学校 保護者の皆様へ

鳥取県高等学校PTA連合会推奨制度

中途加入できます！

ハイスクール24のご案内

-お子様の日常生活の危険を総合的に補償します-

割引 約44%適用※

個人賠償責任 **国内無制限 自転車条例** にも対応！

24時間 365日補償

※団体割引25%、損害率による割引25%を適用。損害率による割引は、天災危険補償特約には適用されません。

令和５年度版　加入タイプと掛金　5タイプ　※割引適用後の保険料

	加入タイプと補償項目	Wタイプ	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ	Sタイプ
賠償	個人賠償責任（記録情報限度額500万円）	全ての加入タイプに「国内：無制限、国外：1億円」を付帯しています！				
ケガ	死亡・後遺障害	165 万円	154 万円	124 万円	66 万円	54 万円
ケガ	入院保険金額（日額）（＊1）	2,445 円	2,150 円	1,400 円	800 円	-
ケガ	手術保険金	入院保険日額の10倍（入院中の手術）　または5倍（入院中以外の手術）				
ケガ	通院保険金（日額）	1,100 円	1,100 円	700 円	500 円	-
ケガ	・熱中症危険補償特約 ・誤嚥性食中毒補償特約 ・天災危険補償特約 ・特定感染症危険補償特約	全ての加入タイプに付帯しています！				
ケガ	被害事故補償特約	3,000 万円	-	-	-	-
疾病	入院療養一時金	20 万円	-	-	-	-
疾病	入院医療保険金（日額）	2,300 円	-	-	-	-
疾病	手術医療保険金（＊2）	入院医療保険金日額の10倍または5倍	-	-	-	-
費用	育英費用（天災危険補償特約セット）	120 万円	114 万円	88 万円	20 万円	-
その他	携行品（自己負担額5千円）	10 万円	10 万円	10 万円	10 万円	-
その他	救援者費用等	100 万円	100 万円	100 万円	100 万円	-
	年間掛金（＊3）（保険料＋制度維持費300円）	10,790 円	8,450 円	6,560 円	4,700 円	2,310 円
	保険期間（1年ごと自動更新）	2023年4月1日（午後4時）より2024年4月1日（午後4時）まで1年間				

（＊1）手術保険金のお支払い額は、入院保険金日額の10倍（入院中の手術）または5倍（入院中以外の手術）となります。傷の処置や抜歯等お支払いの対象外の手術があります。
（＊2）手術医療保険金のお支払い額は、入院医療保険金日額の10倍（入院中の手術または放射線治療）または5倍（入院中以外の手術）となります。傷の処置、切開術（皮膚、鼓膜）、抜歯等お支払いの対象外の手術やお支払回数に制限がある手術があります。　（＊3）年間掛金には制度維持費300円が含まれております。

<補償イメージ>

<個人賠償責任>
自転車で登校中、通行人にぶつかってしまいケガをさせた。

<ケガの補償>
体育の授業中に転倒し、骨折。入院・通院した。

<携行品>
部活動中にラケットを折ってしまった。（自己負担5千円）

◆上記の表に記載している掛金は、１年間分の金額です。中途加入の掛金はお問い合わせください。
◆保険の責任開始は、加入手続きで指定された始期日以降となります。
◆詳しい補償内容につきましては、Web加入画面をご覧いただくか、下記取扱代理店までお問い合わせください。
◆本制度の対象は令和4年度以降に入学されたお子様です。令和3年度以前に入学されたお子様は旧制度となりますので、詳細はお問い合わせ先までご連絡ください。

<お申し込み方法>
Webにてお申込みいただきます。下記QRコードを読み込み、サイトにアクセス後、加入手続きを進めてください。

制度に関するお問い合わせ先（東京海上日動火災保険株式会社　取扱代理店）

㈱東京海上日動パートナーズ中国四国　鳥取支社（受付時間　月～金　9：00～18：00）
住所：鳥取市南隈541トリニティーモールBゾーン１Ｆ　TEL：0857-32-8825

この保険は、鳥取県高等学校PTA連合会を契約者とし、団体の構成員等を保険の対象となる方とする団体契約です。保険証券を請求する権利、保険契約を解約する権利等は原則として契約者が有します。
こちらは団体総合生活保険の概要をご紹介したものです。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、お問い合わせ先までご連絡ください。

引受保険会社　東京海上日動火災保険株式会社　　23TC-007171　令和6年1月作成